

普及活動情勢報告（平成30年6月分）

中央西農業振興センター高知農業改良普及所

集落協定地区での集落営農等の活動



土佐山での説明

6月13日、14日、高知市の鏡・土佐山両地区で、中山間地域等直接支払制度代表者への説明会が開催され、普及所からは、集落営農と直接支払（集落協定）の連携について説明しました。

説明会では、高知市から直接支払制度だけではなく基盤整備事業、鳥獣害対策の説明も行われました。集落営農も含めてどの取り組みも地域で話し合い共同で取り組むことは共通しており、地域を守る方策として有効であることが確認されました。

高知市では、40弱の集落協定がありますが、中山間地域の集落営農は6か所にとどまっています。普及所では、引き続き集落営農の啓発を続けながら、拡大を図っていきます。

はちきん農業大学高知地区講座が始まりました



労務管理のポイントを説明

6月7日、普及所において、女性のための農業講座はちきん農業大学「労務管理講座：労務管理の必要性と保険制度」を開催し、8名の女性が受講しました。今回は外部講師として社会保険労務士の浜田久美子氏を招き、人を雇う時の注意点や労働基準法への適用可否などを説明いただきました。普及所からは、管内の労働力確保対策の取り組み状況を紹介しました。参加者からは「勉強したいことがピッタリ合って非常に良かった」など好評でした。

普及所ではこれから土づくりや栽培技術の基礎（野菜編・果樹編）など企画しており、今後のはちきん農業大学受講生の資質向上を支援していきます。

キュウリの担い手確保・育成に向けて関係機関で支援しています！



講師は農業委員会と
農業公社

6月13日 J A 高知春野新規就農者支援チーム会で、就農希望者に空きハウスを有効活用してもらうための勉強会を開催しました。

今回の勉強会では、土地・ハウスの貸借や、既存ハウスを修繕する際の事業について勉強し、その事業を活用する際の問題点についても共有することで、少しでもスムーズに就農できる方法を検討しました。

今後は土地・ハウスの栽培意向アンケートを実施することで、将来のハウスの空き状況を確認することになりました。普及所では、引き続き研修から就農までをチームで支援し、キュウリ産地の維持発展に取り組んでいきます。

キュウリ栽培における天敵の利用推進



勉強会

6月14日に生産者8名の参加の下、キュウリの天敵の勉強会を行いました。害虫0での放飼と「スワルスキーカブリダニ+タバコカスミカメ」体系が基本で、ポイントとして、①温存ハウスでタバコカスミカメを増殖すること、②ネット(目合い0.4mm)を使用すること、③購入苗の薬剤履歴の確認などについて話しました。生産者から、「春以降のスワルスキー放飼は効果があるのか」、「スワルスキーカブリダニのみの使用で効果は」など質問がありました。ミナミキイロアザミウマの発生が多い地区は基本の放飼方法を守るように伝えました。普及所は、30園芸年度に実施した試験結果(リモニカ、バンカーシート)も報告しました。31園芸年度も、バンカーシートの実証ほを設置し、天敵の普及を推進していきます。

露地ショウガの研修会が開催されました



研修会の様子

6月11日、J A高知市^①生姜生産組合が支部合同研修会を開催し、組合員39名が参加しました。

普及所からは、貯蔵中のショウガに発生する病気および低濃度エタノール土壌還元消毒について説明をしました。生産者の関心は高く、熱心に耳を傾けてくれ、「青枯病菌は酸素が無い状態で生きているのか」など質問がありました。

今後、普及所は、生産組合・J A等と連携して土壌病害対策等の課題解決に向けて、活動支援をしていきます。

ナシ若手の会



5月24日、針木地区で新高梨を栽培している30代の若手生産者3名を対象に新高梨の病虫害防除講習会を開催しました。

3名の園を巡り、病虫害発生状況の聞き取りおよび確認を行いました。ほ場で発生していた病虫害は、黒星病、えそ斑点病、フタモンマダラメイ、アブラムシで、これらの発生生態や防除対策を説明し情報を共有しました。

普及所では、若手の栽培者が技樹習得を促進できるように、このような学習会を行い、ナシの振興を図っていきます。